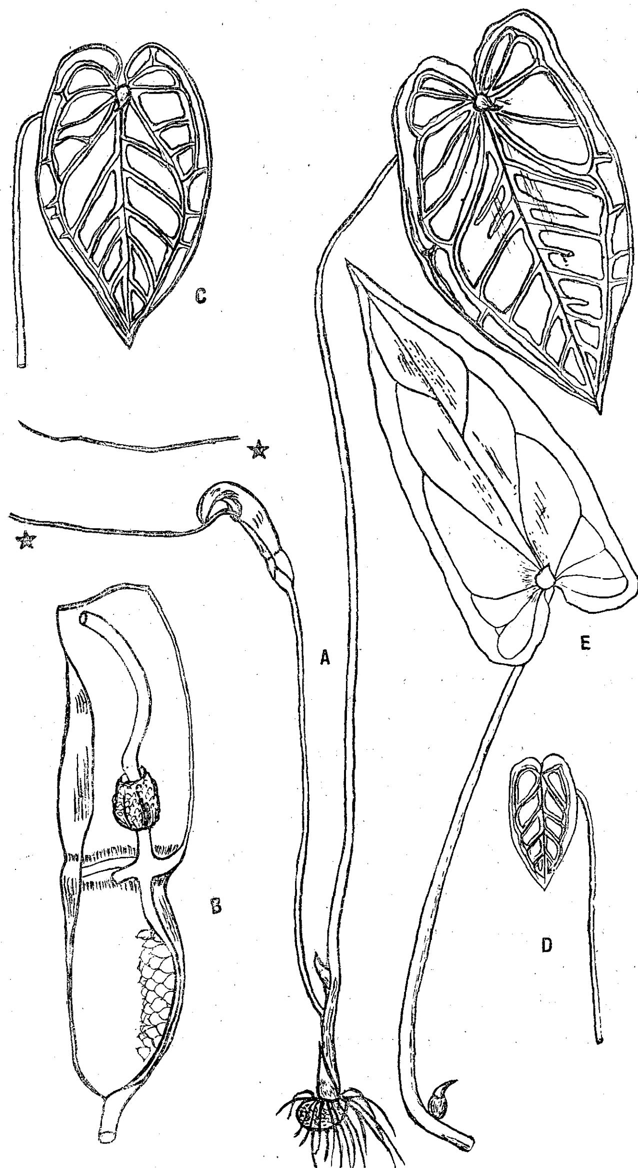
久　内　清　孝：**奇なるカラスビシヤク屬の一植物**

Kiyotaka HISAUCHI: A queer *Pinellia*



A. 全形　B. 花序擴大　C D. 幼株の春葉　E. 老株の夏葉

長い間あたゝめていたが，いつまであたゝめても解決がつきそうにもないので，こゝに意を決し，大方君子のまえにお目見えさせることにする。

多年生で全株無毛平滑な小草。塊茎はほゞ球形，類白色，徑約 7mm。葉は1-3個，葉柄は初夏に塊茎から發生し紫褐色で圓形の斷面を現し，長さ 3-20cm 徑約 1 mmで直立または，光線射入の狀況で蛇行狀に屈折する。柄の基部すなわち地表に接するところに仔芽ができる。葉は幼塊莖から出るものは 1 箇，卵狀楕圓形，長徑約 2cm，老塊莖から生ずるものは，披針狀卵形，楕圓狀披針形，長徑 18cm 横徑約 7 cm，鋭頭，邊緣ほとんど全緣，往々微粗歯を現し，また波狀緣を呈する

場合もある，また多少内巻することもある。基部は心脚で，基端片は左右殆んど相接著するが，夏葉では兩片が互に遠ざかり，各片圓頭の耳形を呈するため，葉の全形が所謂戟形に近づく。葉色は葉面深綠色で，はじめ脈に沿い白斑を現すが，除々に消失する。裏面は紫褐色。肉穗花序は葉柄と同形同色の柄上に生じ，柄の長さ約12cm，佛焔苞は圓筒狀，綠白色，長さ3-3.5cm 徑約6mm，先端鈍頭で前屈し，下部の邊緣はかるく合著し，筒の下部に關節ようのくびれがある。苞内より芳香を發する。肉穗花序は單一　苞のくびれを境として，やゝ灣曲し，くびれの下部に雌花，その上部に雄花を密生し，花序の先端部は線狀で苞外に超出直上し更に斜上する。いまだ果實を見ざるも，仔芽で殖える。東京では塊莖，仔芽が屋外で越冬するが地上部は枯れる。本品は往年佐々木一郎氏が，小笠原父島　清瀬の國有林の園から持歸つた植物に附著して來て，爾來同氏の栽培しているものであるが，同島の關係者も，多年同島を訪れた學者も知らず，したがつて，いつどこから父島へ行つたものかわからない。またこの小草が同島の自生とも考えられない。この屬は今日迄記載されたもの極めて少く，これを既知のものに無理にあてれば *Pinellia cordata* N. E. Brown であるが，それは無理に黑白をきめようとする暴擧であるこというまでもない。もしそれだとすれば支那大陸中部のもので，アリバイの點で考えものである。或は新種かもわからない。いな大いにその可能性はあるが，それには先決もんだいとして，*P. cordata* とどこが違うかをきめなければならない。よつて　こゝでは，こんなものゝあることを報告するにとゞめて，決定は識者にまかせ，呼稱の便宜のためニオイハンゲ（香半夏）と呼んでおく。

This ambiguous *Pinellia* is believed to have been brought from Chichisima, Bonin Islands several years ago, but it is rather hard to think that it is the inhabitant of that island although its original locality is ascertainable. It propagates well by gemma which is hardy in Tokyo. *Pinellia* is a small genus and only a few plants are enumerated in Engler's Pflanzenreich and not much have been added up to this date. If I intend to identify forcibly it resembles *P. cordata* N. E. Brown but I hesitate to give a decision, as I am not in a position to inspect the type specimen in Kew and I am expecting suggestions of eminent students.

The leaf at first variegated and reddish brown beneath as well as petiole and scape. Spathe whitish green and exposes a scent. Fruit does not develop.